議會の問題にする山陽

八幡製鐵所の事件

友愛會に據つた上京委員

八幡製鐵所職工罷業件の眞相を天下に訴へんとて十二日午後一時二十五分友愛會木村錠吉外二名十一日九州勞友會幹部淺原、工藤兩氏友十日の製鐵所内各愛會藤田俊次郎氏等數朝は一遍三百十七行は友愛會に據つて八幡事件を の缺勤者二名に對し は「警戒は尚厳しい爲で 戒が厳しい爲で

中央の問題となし飽くまで主張

擁を惹起を貫徹せんとて十二日

は從前の

辛

但仕事

會は全力を傾注して

粗惡は

卒倒者を出すに至つたので

不平は遂に勃發した

八幡製鐵所職工罷業の勃發した五日以來蚤夜間間なく警戒の任に當つてゐた警官六七十名、巡査百名の食糧としては警察側の希望で製鐵所から毎回一人につき竹の皮包の握飯三箇に澤庵二三切れを添へて支給してゐたが巡査の疲勞と食糧粗惡の爲め九日午後八時製鐵所南門附近警戒中の大牟田警察署刑事巡査丸辰し新習所巡査小[illegible]編巡の兩氏が卒倒して人事不省に陥つた事實が傳はつた爲め警官中に不平が勃發したので十日より各巡査巡査の食糧は二十錢の汽車賃を給することになつた(八幡電話)

勞友會幹部

檢事局へ

八日勞友會幹部が八日起訴され

白仁長官

會見す

白仁長官が歸任するや職工側にては長官に會見せんとの希望があつたが十日午後に至り友愛會神戸支部主任木村氏外六名は製鐵所に長官を訪ひ

一、就業せざる職工に對し何故惡兵巡査をして監督せしむるや

一、時間短縮問題

一、今回職工側の要求は勞友會員のみの要求と觀るや又は全職工の要求と觀るや

等に就き質問したが長官は中川次長が職工側に爲せる通告を敷衍し親切なる回答をしたので一同多少の諒解を爲し近く報告演說會を開く事にした(八幡電話)

東京市の社會局長は窪田氏

初市會で當選

東京市の初市會は十日午後五時半から開かれ問題の社會局長の選擧をも行ひ窪田文三氏を推すことになつた投票の結果總

『怠業』當

八幡製鐵所職工罷業件の眞相を天下に訴へんとて十二日午後一時二十五分友愛會木村錠吉外二名十一日九州勞友會幹部淺原、工藤兩氏友愛會藤田俊次郎氏等數朝は一遍三百十七行は友愛會に據つて八幡事件を の缺勤者二名に對し は「警戒は尚厳しい爲で 戒が厳しい爲で

引受けた鈴木會長の談

闘ふ筈だ殊に罷業幹部拘引

後無數の警官や憲兵が劍を接し ピストルを突附けて職工に作業を強ふるが如き暴虐なる方法に は斷じて服する譯に行かぬ私は 上京委員諸君をして農商務大臣 と會見せしめ要求の貫徹に努力 する一面議會の問題と して輿論を作興し官立 工場の風紀の大革新を期する決 心である

ある

いづれも自動

へ送致された

吾々は申合

若し警官

會見せんとの希望

次長

通告

諒解

說會

推す

現在

了解し

であつて米

を持參し得る

國たる故を

國全體の他世界平和に貢獻すべき事項

題の起れる以前より

業を樹立せねば

力の

合すべきや

共通利益

主義を確實にし以て其共通利益

權を確保し支那の獨立及領土保

權を保持し其地域に於

國の領土權を保持し絶然たる平

目的とするものにして

其の條文の上に於て

參

この條件なきに非ざるを以て一方藤

上之を削除する善なり而して一方藤

も緊要とする所なる地位を保持し國際

世界平和に貢獻すべき事項

題の起れる以前より

ロヴ

立し

立し

立し